

日本体育大学

令和8年度入学者選抜 【出題の意図・模範解答】

| | |
|---------|---------------------------|
| 学部・選抜方式 | 全学部 学校推薦型選抜 指定校推薦（併設校） |
| 科目 | 小論文 |

【出題の意図】

- ・ グラフを正しく読み取り、性別や学校段階による差、年次推移といった複数の傾向を把握できるかを問う出題とした。
- ・ 読み取った傾向について、発達段階やジェンダー、社会環境などの観点から背景要因を説明できるかを評価する。
- ・ 資料の内容を踏まえた上で、自分の見解を根拠とともに論理的に述べることができるかを評価する。

【模範解答】

図から、運動部活動の加入率は、中学生・高校生ともに女子の方が男子より低いこと、中学生より高校生の方が低いこと、さらに全体として加入率が年々減少していることが読み取れる。

女子の加入率が男子より低い背景には、スポーツが男性的な活動と捉えられやすい社会的なジェンダー規範や、女子の思春期における身体の発達的变化に対する不安や他者の視線への意識が影響していると考えられる。また、高校生になると中学生の時より加入率が低下するのは、学年が上がるにつれて学業成績や進路選択が重視され、運動部活動を行わないという選択が現実的になるためだと考えられる。加えて、成長とともに運動能力の個人差が顕在化し、苦手意識や失敗経験が積み重なることで、「自分には向いていない」という自己評価が固定化し、参加を避けるようになることも一因と考えられる。さらに近年の加入率低下については、コロナ禍による部活動の制限や生活様式の変化に加え、スマートフォンや動画視聴、ゲームなどを含む余暇活動の多様化、スクリーンタイムの増加といった社会環境の変化が影響していると考えられる。こうした環境では、身体を動かす経験そのものが日常から減少している可能性もある。

これらを踏まえると、運動部加入率の低下は個人の意欲や努力だけの問題ではなく、学校や社会環境によって生み出されている側面が大きいと言える。今後は、競技力や勝敗を重視する従来型の運動部活動だけでなく、運動の楽しさや達成感を重視し、運動が得意でない児童生徒も含めて参加しやすい多様な運動の機会を整えることが重要であり、学校全体での支援体制の工夫が求められる。